

第7章 鍵

平井建多

7.1 はじめに

今回のゼミ誌においてなぜ私が鍵について書いているのかをはじめに触れておかなければならない。というのもゼミ旅行の際に自分が部屋の鍵をなくしてしまい、旅館の方をはじめ、ゼミの皆さんにも迷惑をかけてしまった。今回はその時の謝罪の意も込め、鍵についてまとめていきたい。

7.2 鍵の概要

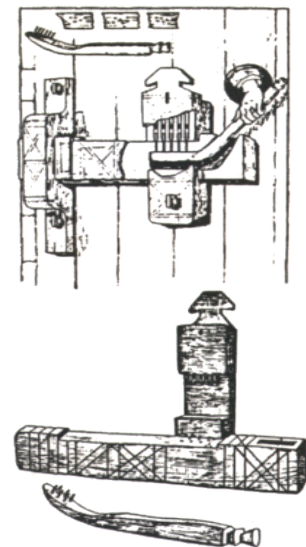
まず初めに、日本と世界における鍵の歴史、そして鍵の持つ宗教との関係性について述べていきたい。

7.2.1 世界における鍵の歴史

7.2.1.1 紀元前

何か大切なものを持つとなると人間はそれを守ろうとする。そこで生まれたと考えられているのが鍵である。世界で最初に生まれたとされるのが紀元前 2000 年ごろに生まれたエジプト錠とよばれる木製の鍵及び錠だというのが今日の定説である。この錠の構造は、^{かんぬき}門と錠本体とを数本のピンで動かないようにしておき、外から錠を開ける（解錠する）ときは、図 7-1 上図のように扉の穴から鍵を差し込んで、鍵でピンを押し上げて門を動かす仕組みになっている。その後、ギリシャ時代の初期には扉の締りとして、門を革紐や綱で縛って複雑な結び目を作る方法がおこなわれていて、その結び目はその家の主人しか解けないものであった。この錠は安全度においてあまり期待できなかったと思われる。その後ギリシャ時代の後半には、エジプト錠の原理を応用したもので、さらに精巧なパラノス錠が考案されるようになった。ローマ時代のカギはほとんどが鉄製であったため、完全な状態のものは発見されていないが、発見された青銅製の門から、この頃もエジプト

図 7-1 エジプト錠



出所：鍵と錠の歴史

錠や「パラノス錠」と同じ原理の錠が使用されていたということが分かる。また、この時代は南京錠（padlock）が使われ始めたようで、地中海沿岸地方から近東にかけて流行しており、とくに中国では広く使われていたようである。さらに、ローマでは、指輪のように指にはめる南京錠の鍵が使用されていたようである。

7.2.1.2 宗教的な面と中世

鍵には宗教的な役割がある。実際に鍵は世界各国の宗教や神話などに登場する。現世と天界、魔界などの異なる世界は「門」「扉」をくぐって辿りつくと考えられており、鍵はその「門」「扉」を管理する力の象徴となっている。一番有名なものとして、新約聖書「マタイによる福音書」第16章に記述されている「天国の鍵」が挙げられる。イエス・キリストが第一使徒ペテロに天国の鍵を渡すエピソードが記載されているが、これは権力の移譲を表し、死後の世界をコントロールできる強力な力がペテロに付与されたことを意味する。ペテロを初代教皇とするカトリック教会にとって鍵は権力を表し、教皇の紋章には十文字に交差した金と銀の鍵が描かれている。このように、キリスト教では鍵が重要な意味を持っている。

日本においても、門を閉ざす機能から、鍵には魔除けなどの効果があると考えられ、鍵を意匠化した家紋「鍵紋」が作られ、有名な所では土肥氏が替え紋として使用した。

中世のヨーロッパは力が社会を支配した時代で、錠も破壊に強い大型のものが使われていた。その形式は、ウォード錠といわれるもので錠側に障害（突起）を多様に設け、鍵は複雑な刻みがほどこされた大型のものであった。権力者は、次第に鍵模様の精巧さや美しさを競うようになり、渦巻模様、組合せ文字、注文主の紋章などを表したものなどが現れ、鍵が権力や地位の象徴になった。今日でも名残からか都市が善意の意味で外国の都市や客に礼儀的な都市の鍵をおくったり、渡したりすることが行われている。

しかし、錠そのものの進歩はほとんど見られない暗黒時代といえる。

7.2.1.3 近代から現代

産業革命期になると、より優れた鍵や錠が洗練されるようになる。イギリスはバロンのレバータンブラー錠やチューブのレバータンブラー錠などの発明において一時期大きな権威を示したがアメリカ人エールのピンタンブラー錠の台頭によって衰退していった歴史もある。基本的に現在使われているシリンダー錠はこのころ発明されたものと基本的な構造は変わっていない。変わった部分としては、生産時に手作業で行っていたところが、機械による生産になったのみで、錠における大きな進化は起きていない。ただし、現在はシ

図 7-2 バチカンの紋章



出所：Wikipedia

リンダー錠以外の鍵も使われてきており、代表的なところを挙げるとオートロックシステムやリモコンキーが世界で使用されていたりする。

7.2.2 日本におけるカギの歴史

7.2.2.1 古代から江戸

次に、日本における鍵の歴史についてみていきたいと思う。日本で最古の鍵とされるのは、1998年に野々上遺跡（大阪府羽曳野市）から出土した7世紀中頃と推定される海老錠である。この海老錠というものは、紀元前のローマで誕生した南京錠に近い構造で作られたとされ、正倉院にも貯蔵されている。もともと錠前は^{くさり}鎖、^{かぎ}鑰、^{かぎ}鑑の一字でも表記された。また、鎖は錠前という字義から、閉ざす行為を意味する字にもなっている。例としては鎖国、封鎖などがあげられる。室町時代までは、基本的な変化はなく海老型のものが続いたが、戦国時代頃からは金属加工技術が発達し、日本独特の錠前が産まれた。これがいわゆる和錠である。和錠は戦がなくなり、仕事を失った刀鍛冶などの武器職人が鍵職人に転職したため江戸時代に全盛を迎えた。錠前職人たちは武家や裕福な商人たちにリクエストされて豪華で個性的なデザインを施していた。そして優れたものを作った職人には藩から褒美が与えられていた。このことも職人たちが競って和錠を作った理由になっている。江戸時代、庶民にとって鍵はほとんど必要のないものだった。当時の治安は大変よかったうえに、用心する際はほとんど心張り棒で戸締りをしていたからである。鍵をかけるのは当時の金持ちが蔵にかけるぐらいであったが、その鍵は手で簡単に開けられるようなものなど、防犯の意味をあまり成さず、ほとんど飾りだけのようなものが多かった。ただ、どの時代においても盗人は存在するもので、この時代の人々は貴重品をもって外出していたと考えられる。

図 7-3 海老錠



出所：(毎日、2016.7.14)

7.2.2.2 明治から平成

開国して海外との貿易が始めると、鍵も性能の良いものがたくさん日本に入ってくることになり、海外の鍵を真似して日本のメーカーも国産で鍵を生産していくことになる。戦後に、3節で述べられる鍵メーカーによって高性能のカギが国内で製造されるようになり、一般住宅にもカギが浸透し、このころからカギが玄関についているのが当たり前になっていく。これまで、庶民はカギを必要としない生活を送っていたのが都市部の家にはカギはなくてはならないものになっていった。また、この時代には鍵っ子という言葉も生まれていた。しかし、昭和の終わり頃にピッキング犯罪と呼ばれるものが日本で多発する。ピッキングとは鍵を使わずしてカギをあけてしまう技術のことだが、これを悪用した犯罪が急激に増加していく。この当時主流だったディスクリンダーというカギが簡単にピッ

キングできてしまうカギだったことが、このような被害が増加させた原因だといえる。ピッキング被害にあうので、ディスクシリンダーを使用するのは危険だとマスコミで取り上げられ、危機感を覚えた人が別のカギに交換するようになり、メーカーでもディスクシリンダーの製造が中止された。ディスクシリンダーのかわりに登場したのがディンプルキーという鍵である。これはピッキングできないカギということで、平成に入ってから日本の主流となったと考えられる。このようにして日本のセキュリティ技術は進化している。

7.3. 現代における鍵

鍵の日本そして世界における話をここまではしてきたが、ここからは現代において鍵がどのような形で使用されてきているのか見ていきたいと思う。

7.3.1 現代における鍵メーカーとシェア

7.3.1.1 美和ロック株式会社

1945年の美和産業としての創業以来日本の鍵メーカーのトップを走る会社である。1972年に社名を現在の美和ロック株式会社に変更した、国内シェア60%を占める日本トップの錠前メーカーである。当然ではあるが、鍵のシェア率も国内ナンバーワンである。これまで、ホテル錠として「ホテ

図 7-4 電気錠ワイヤレスリモート制御システム wiremo



出所：美和ロック株式会社 HP

ルカードロックシステム」を開発、また近年では「電気錠ワイヤレスリモート制御システム wiremo」を発売するなど日本の鍵の進歩に大きく貢献した。

7.3.1.2 ゴール

先ほど述べた、美和ロック株式会社よりも30年近く先に「大阪白玉錠製作所」として創業されたゴールも日本で有数の鍵メーカーである。大正時代に精度の高い錠といえば、欧米からの輸入や模造品に頼らなければならなかったこの時代にゴールは日本で初めてシリンダー錠の開発に着手した。こうして開発されたシリンダー錠は高い防犯性と操作性を実現した。“世にないものなら自分たちで生み出す。満足いく品質が生まれるまで取り組み続ける”この精神を大切に、ゴールは今日も日本のカギメーカーを引っ張り続ける。

図 7-4 ゴールのシリンダー錠



出所：ゴール住宅建材

7.3.2 鍵と恋人たち

7.3.2.1 愛の南京錠概要

テレビなどで恋人たちが、鍵を橋などにかけている様子を見たことがあるだろう。これらは永遠の愛の象徴として行われているものである。ここではこの現象、いわゆる“愛の南京錠”の現象についてまとめていきたい。そもそもこの愛の南京錠の現象はヨーロッパでは2000年代初頭に始まった。例えばパリでは恋人同士の名前をイニシャルで刻んだ南京錠を橋の欄干にかけ、セーヌ川に鍵を投げ捨てて不滅の愛の誓いとした。愛の南京錠の起源については諸

図 7-5 セーヌ川の南京錠



出所：Wikipedia

説あり、この儀式が行われる場所ごとに由来があるが根拠には乏しく、文献もないことがほとんどである。イタリアの作家フェデリコ・モッチャ（英語版）の2006年の小説『Ho voglia di te』（君が欲しい）とその映画化作品のヒットによって流行したと考えられている。同様にセルビアにある橋（この習慣にちなんで「愛の橋」と名づけられたモスト・リュバヴィ）についても、第二次世界大戦以前にまで遡ることができ、日本においては神奈川県湘南平公園の龍恋の鐘がこの愛の南京錠をかける場所として知られている。そもそもなぜ南京錠なのかを含めてはつきりとしたことはわかっていない。龍恋の鐘からほ

ど近い中野商店に鍵が売っているらしく、”恋するハニカミ”というテレビ番組でタレント・俳優の杉浦太陽が来て鍵を買ってからお客が増えたい。それ以前からも鍵は売っていたらしいが龍恋の鐘自体は平成になってからできたから、鍵をかけるようになったのもそれ以降だと考えられる。2003年の放送以降、龍恋の鐘の南京錠は全国的に知られるようになったというが、それ以前の、そもそも鍵をかけるようになった時期については不明だった。その後美観を損ねるという理由から公園側が撤去作業を続けたため、愛の南京錠が付けられる箇所が江ノ島に移ったといわれている。

7.3.2.2 南京錠撤去

多くの国でその土地の自治体やランドマークの所有者が懸念を表明し、南京錠を撤去しようとさえしている。例えばパリでは市が2010年5月にポンデザール、レオポール・セダール・サンゴール橋、アルシュヴェシェ橋に増える一方の南京錠を問題視して、次のような声明を出している。「これらは我々の建築遺産を保存する上で障害となっている」。この愛の南京錠は2010年に突如として姿を消したが、その後アルシュヴェシェ橋にはすぐにまた鍵がかけられるようになった。ポンデザールでは、2014年6月に南京錠の重みで欄干の金網の一部が崩れて橋が一時閉鎖される事態となったため、パリ市当局は南京錠が取り付けられないように欄干の金網をアクリル板に置き換えることを決定している。日本でも、愛知県の野間埼灯台や神戸市のビーナスブリッジが愛の南京錠の名所として知られているが、景色にそぐわないという意見もあり、自治体が対応に追われるなど問題となっている。ビーナスブリッジでは2000年頃から南京錠が手すりに付けられてきたが、景観や補修の妨げになることから撤去した。これらを鋳溶かしてハート型の記念プレートに作り替え、さらに付近に南京錠を取り付けるためのモニュメント（愛の鍵モニュメント）を設置した。このモニュメントは設置から13か月で1万個を超える南京錠が取り付けられて一杯になってしまったため、これらも追加のプレートに作り替えられている。プレートは4枚揃えば四つ葉のクローバー型になるよう設置されている。

7.4. 鍵のトラブル

実際に今回のゼミ旅行の私のように様々な鍵にまつわるトラブルが世の中では多数起っている。そうしたトラブルの事例とそれらを助けるカギの救急車に関してまとめていきたい。

7.4.1 鍵にまつわるトラブル・体験談

鍵にまつわる失敗は、おそらく多くの人が体験したことがあるだろう。私自身も18年間生きてきて様々な鍵のトラブルに関わってきた。紛失をはじめ、車の中に鍵を置いてき

たままで鍵はかけられていることや、バイト先や部活などでも多くのトラブルを見てきた。ネット上でも多数の鍵のトラブル談が書かれていたのでここで紹介したいと思う。

7.4.1.1 車におけるトラブル

まずは、車における鍵のトラブルから紹介しよう。車において起こしやすい鍵のトラブルはインキーであろう。これらは主に二つのパターンに分けられる。

1 つ目は鍵を置き去りにしてドアロックというパターンである。手順としては、

- ①車内にキーを置きっぱなしにする
- ②運転席を除く全てのドアを閉め、内側から鍵をかける
- ③外側から、運転席のドアノブを引いた状態で扉を閉める
- ④すべての扉がしまりインキーになる

このような流れで起こるのが鍵置き去りによって起こるインキーである。この方法でインキーをする人は、「いちいちキーをカバンから出すのが面倒」という理由で、このような使い方をしていると考えられる。

2 つ目は子供が鍵を中からかけてしまうものである。実際これらが原因で子供が中に数時間閉じ込められるなんてこともある。

こうしたインキーはリモコンキーの増加によって減少はしてきているが、中には車内にっていると、自動でロックされるものもあるので、注意は必要である。

7.4.1.2 ホテルにおけるトラブル

続いては、ホテルにおいての鍵のトラブルである。近年ビジネスホテルではオートロックシステムが採用されている。確かに便利な面は多数あるのだが、ふとビールでも買いに行き帰ってくると、鍵が締まっている。こんな経験をしたことはないだろうか。しらべえ気になるアレを大調査ニュースによると、20代～60代までのホテル利用者1248名に調査をしたところ、全体の2割が過去に上記の経験をしたことがあると答えている。また、年齢・性別で見えていくと、特に50～60代の男性に多いことも分かっている。今後は紛失を含めたこうしたトラブルにはくれぐれも注意していただきたい。

7.4.2 カギの救急車

最後にこれまでで話を進めてきたトラブルを解決してくれる方々を紹介していきたい。全国的に展開されているカギの救急車についてである。上記のような鍵のトラブル、合鍵作成、鍵の交換・取り付け、防犯対策など鍵におけるあらゆることを行っている店である。ぜひ鍵において何か助けを求めたい際にはカギの救急車を利用していただきたい（カギの110番も同系列である）。ちなみに、旭川市には、4条通りにカギの救急車の店舗がある。基本的には鍵の紛失時にカギの救急車に依頼すると、ほとんどの鍵の作成は可能であるとのこと、ただし、近年は高度な技術によって生産された鍵が多いため場合によって

は、詳しく状況を聞かれたりすることもあるそうだ。また、合鍵作成の際には、自分の身分を証明できるもの、車の際は運転免許証が必要となってくるので準備を忘れないでいただきたい。

7.4.3 トラブルを減らすために

しかしできるだけこうしたところにお世話になりたくないのもまた事実だろう。最後にこうしたトラブルを減らす工夫について考えていきたい。日本錠前技師協会認定の資格取得スクール「鍵の学校ロックマスター養成講座」が、20代～50代の男女400人を対象に、鍵のトラブルを経験したことがあるか、などについてのアンケート調査を行った。その結果と同スクールに聞いたトラブル対処法などを最後に紹介しよう。

アンケート結果によると36%の人が鍵のトラブルを経験している。具体的には先ほどのトラブルで述べた事例が多かったが、今回は鍵のトラブルが起こされるのがどういった時期かについて判明した。アンケートより、鍵を無くすケースは、年末年始やお盆といったお酒を飲む機会が多いシーズンに起こりがちだそうだ。お酒好きの人は十分気を付けたい。また、電子キーなどの電池切れなども多発しているので定期的なチェックがここでは求められる。とにかく多くはその人自身が原因となるものが多いので自分自身で注意することが何よりも大切だ。

参照 HP

- ・ Wikipedia

「鍵」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%8D%B5>

- ・ 鍵と錠の専門メーカーGOALHP

<https://www.goal-lock.com/>

- ・ 鍵百科

<http://www.encyclopedia-key.com/history-key/beginning/>

- ・ 鍵屋鍵のレスキュー鍵の110番救急車

<http://www.kagi110qq.co.jp/keyabout/09.html>

- ・ CLUTCH もっと車が好きになるカー情報メディア

<https://clutch-s.jp/p000354/>

- ・ 錠前と鍵の歴史

<https://www.gizmodo.jp/>

- ・ しらべえ 気になるアレを大調査ニュース

<https://sirabee.com/2017/01/22/20161048728/>

- ・ 毎日新聞 2016年7月14日

<http://mainichi.jp/articles/20160714/ddn/041/040/008000c>

・美和ロック株式会社 HP

<http://www.miwa-lock.co.jp/>

・ライフルホームズ PRESS

https://www.homes.co.jp/cont/press/rent/rent_00227/